

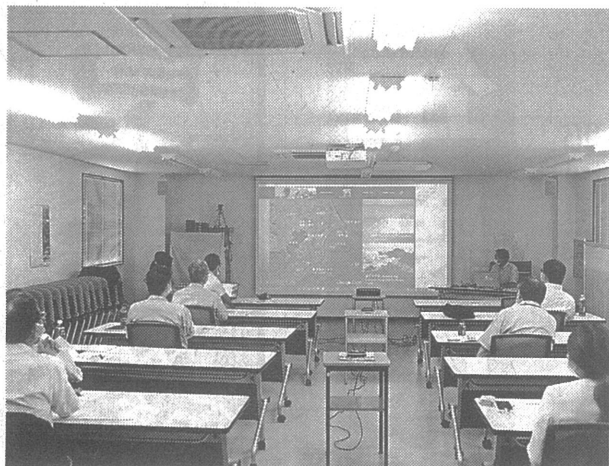
価値創造し貢献を 創立後初の研修会開く

地理空間情報推進協会



中島代表理事

地理空間情報推進協会（中島博敬代表理事）は7月26日、協会創立1周年を迎え初の研修会を開催した。対面とZOOMによるオンラインとを併用し、約40人が受講。2つの講義終了後「海岸の汀線位置の変動」や「ドローンを利用した農業管理システム」など多くの質問が寄せられた。開会にあたり、中島代



約40人が受講した

表理事は感謝の意を表しながら「コロナ禍だが、毎年のように発生する自然災害は待ってはくれない。自然災害の多い日本ではドローンの活用に必要な期待が寄せられている。引き続き、ドローン

を始めとするUAVの活用推進に尽力したい」とあいさつ。「常識や既存の枠組みにとらわれず、期待を超える新しい価値を創造し社会に貢献すること、次の成長を目指す」と呼び掛けた。

また、日本大学生産工学部土木工学科の落合実特任教授が「海域の環境を視る」、東北大学大学院工学研究科の小森大輔准教授は「エビデンスに基づく流域治水のための観測・監視」を講義。落

合特任教授へ「海岸でのドローン撮影における注意点」や「北極海における放射線物質」、小森准教授に「流木流出モデル」UAVによる3次元情報の取得」などの質問があった。